

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ニホンイシガメ

Mauremys japonica (Temminck et Schlegel, 1838)

鈴木大（東海大学）・竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：鈴木大・竹中践，2026. ニホンイシガメ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 114-120.

Citation: Suzuki, D. and S. Takenaka, 2026. *Mauremys japonica* (Temminck et Schlegel, 1838). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 114-120.

ニホンイシガメ

Mauremys japonica (Temminck et Schlegel, 1838)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) B1ab

基準 A: —	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
---------	----------	---------	---------	---------

B1. 出現範囲が 20000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。

a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。

【過度に分断】

ニホンイシガメは主に河川や湖沼といった淡水域にみられるが、陸域環境も多く利用するため、個体群の維持には淡水域と陸域が混在する水辺環境の存在がとくに重要である。そのような本種において好適な生息環境は、河川改修や圃場整備等に加え、里地里山の管理放棄等の影響により消失や減少が各地で進行している。さらに湖沼や河川の中下流域の水辺環境は、外来種のクサガメやミシシippアカミミガメが優占する事態が進行しており、本種が健全に生息する地域は分断化され個体群が孤立してきている。

b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。

【判断理由】

ニホンイシガメの生息地の中で平地を中心とした水辺環境では、外来種のクサガメやミシシippアカミミガメが侵入し、餌資源や生息場所などをめぐる競合が生じており、各地でニホンイシガメの個体群の衰退や局所的な絶滅を生じている。また、クサガメとの間に異種間交雑が生じており、複数の地点から交雑個体が見つまっている。この交雑個体は繁殖能力を有することが確認されており、遺伝的に純粋なニホンイシガメ個体群の消失が懸念される。さらに、アライグマによる影響も深刻である。2010 年代以降より、千葉県や福岡県で実施された調査によると、アライグマが侵入した地域では、捕食被害を受けてニホンイシガメの個体数が急速かつ顕著に減少したことが報告されている。その他の多くの地点からも、アライグマによるものとみられる捕食被害が報告されている。加えて、ペット取引による野生個体の乱獲も起きている。これら一連の生息阻害要因は本種の生息範囲全体で影響を及ぼしているとみられ、各地のニホンイシガメの個体群維持が困難になっており、個体群の衰退と消失が進行している。

評価分科会： 爬虫類・両生類分科会

概要

ニホンイシガメは、本州、四国、九州および周辺島嶼に生息する日本固有種である。小川や河川、池などに生息し、湿地や水田でもよく見られる。本種は、河川改修工事や水田の圃場整備による生息地の減少や、ペット取引による乱獲、外来種アライグマによる捕食

圧、クサガメやミシシッピアカミミガメといった外来種との餌や生息地などの資源をめぐる競争、そしてクサガメとの間の交雑を介した遺伝的攪乱の影響により、絶滅の危機に瀕している。

基礎情報

【形態】

背甲は褐色か暗褐色で、腹甲は黒色。背甲は卵形で、背中線上はにぶく不連続な隆条をもち、後縁部はにぶい鋸歯状を呈する。頭部は灰褐色で、四肢は暗灰褐色または黒褐色。前肢の肘部の後縁に黄色の縦条があり、さらにその前方部に灰色の縦条が入ることもある。爪は前肢が5本、後肢が4本。尾は比較的長い。背甲長はオスが13 cm、メスが20 cm程度。幼体やオスは甲が扁平だが、メスは甲高でドーム状となる。

【生活史】

淡水性で河川や湖沼等の淡水域にみられるが、陸域でも活動する。藻類や植物、果実類といった植物性のものから、貝や昆虫、甲殻類といった無脊椎動物から、魚類、爬虫類や鳥類の死体等、動物質のものまで食べる雑食性。卵生で5月末から8月初期に産卵する。孵卵時の温度で性別が決まる、温度依存性決定。交尾時期は春季と秋季。冬季は河川や湖沼の水中で越冬する。オスは10年から15年、メスは20年から30年ほど生きるとされるが、正確な寿命は不明。

【生息環境】

河川や湖沼といった淡水環境に生息する、さらに周辺の陸域や水田などの環境もよく利用している。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】田地・畑地，農業用水路，湿地・湿原・細流，河川上流域，河川中流域，ため池・池沼，湖・ダム湖 【陸域_平地部】田地・畑地，湿地・湿原，河川中流域，河川下流域，ワンド，農業用水路，小河川，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

本州（新潟県から関東以南）、四国、九州、周辺島嶼。

現在の生息状況

【分布域の現況】

小規模な絶滅が各地で生じていると考えられるが、詳細は不明。

【生息地の現況】

詳細は不明だが、開発等により生息環境の劣化・消失が続いていると考えられる。

【個体数の現況】

減少傾向にあるとみられる。全体のデータはないが、千葉県等のモニタリングでは明確な減少が示されており、これは全体の傾向を反映していると考えられる。

存続を脅かす要因

温度依存的性決定のため、産卵地域の温度環境の制限が性比のアンバランスを生じる可能性が指摘されている。低山地の沢周辺の樹林伐採、護岸整備などによる環境悪化や土地開発、水田の耕作放棄などによる生息地消失が進んでいる。ペット用の商業捕獲の影響による減少が懸念される。外来種のクサガメやハナガメとの交雑が生じ、遺伝的攪乱の影響が懸念される。生息域において、外来種のクサガメやミシシippアカミミガメとの競争的生息分布の縮小が報告されている。外来捕食者のアライグマによる捕食被害が各地で報告されており、個体数の減少が予測されている場所、ならびに局所的に絶滅したとみられる地域もある。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取，競争/競合（外来種による），交雑（外来種による）
	(現在)	森林伐採，湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），競争/競合（外来種による），交雑（外来種による），気候変動

特記事項

ミトコンドリア DNA に基づく遺伝的変異を調べた研究により、遺伝的に異なる 2 系統の存在が確認されている。一方は本州の大部分と四国に見られ、もう一方は中国地方の西部と九州に見られる。広島県や島根県域において、両系統が混在する地域がある。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第4次 2019:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第4次 2018:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第4次 2017:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第4次 2015:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第4次:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT
第3次:	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	DD
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【宮城県】情報不足(DD)，【茨城県】情報不足②現状不明種，【群馬県】絶滅危惧 I A 類(CR)，【埼玉県】情報不足(DD)，【千葉県】最重要保護生物(A)，【東京都（本土部）】絶滅危惧 I A 類(CR)，【東京都（区部）】絶滅危惧 I A 類(CR)，【東京都（北多摩）】絶滅危惧 I A 類(CR)，

【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類, 【新潟県】準絶滅危惧(NT), 【富山県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【石川県】準絶滅危惧(NT), 【福井県】県域準絶滅危惧, 【山梨県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【長野県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【岐阜県】準絶滅危惧, 【静岡県】準絶滅危惧(NT), 【愛知県】準絶滅危惧(NT), 【三重県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【滋賀県】希少種, 【京都府】要注目種, 【大阪府】NT, 【兵庫県】Cランク, 【奈良県】絶滅危惧種, 【和歌山県】準絶滅危惧(NT), 【鳥取県】準絶滅危惧(NT), 【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類, 【広島県】準絶滅危惧(NT), 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【徳島県】絶滅危惧ⅠB類, 【香川県】準絶滅危惧(NT), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】注目種, 【福岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【佐賀県】情報不足, 【長崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【熊本県】準絶滅危惧種(NT), 【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【宮崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU-r), 【鹿児島県】準絶滅危惧

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kagayama, S., D. Ogano, M. Taniguchi, K. Mine, S. Ueno, H. Takahashi, N. Kamezaki, and M. Hasegawa, 2020. Species distribution modeling provides new insights into different spatial distribution patterns among native and alien freshwater turtles in Japan. *Current Herpetology*, 39(2): 147-159.
- Kagayama, S., A. Shimofuji, K. Ohtake, S. Shishikura, D. Ogano, and M. Hasegawa, 2021. Changes in population structure of the freshwater turtle *Mauremys japonica* following the invasion of feral raccoon *Procyon lotor* in the southern tip of the Boso Peninsula, Japan. *Current Herpetology*, 40(1): 22-39.
- 小菅康弘, 2011. 千葉県における淡水ガメの大量死：捕食者はアライグマ？. *亀楽*, 1: 10-11.
- 楠田哲士, 2019. ニホンイシガメの生息域外保全に向けた考え方の整理と全国での取り組み事例の紹介. *亀楽*, 17: 10-18.
- Matsuda, Y., S. Kaburagi, N. Kamezaki, H. Ota, H. Takahashi, T. Imazu, S. Kagayama, and K. Kawamura, 2024. Density-dependent unidirectional hybridization between the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, and the exotic Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii*, in Japan, inferred from molecular and morphological analyses. *Zoological Journal of the Linnean Society*, zlae070.
- Okada, Y., T. Yabe, and S. Oda, 2010. Temperature-dependent sex determination in the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica* (Reptilia: Geoemydidae). *Current Herpetology*, 29(1): 1-10.
- Okada, Y., T. Yabe, and S. Oda, 2011. Interpopulation variation in sex ratio of the Japanese pond turtle *Mauremys japonica* (Reptilia: Geoemydidae). *Current Herpetology*, 30 (1): 53-61.
- 鈴木大, 2021. ニホンイシガメ, 日本爬虫両棲類学会（編）, 新日本両生爬虫類図鑑, pp. 94. サンライズ出版, 彦根.

- Suzuki, D. and T. Hikida, 2011. Mitochondrial phylogeography of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica* (Testudines, Geoemydidae). *Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research*, 49(2): 141–147.
- 鈴木大, 谷口真理, 加賀山翔一, 2025. 日本の淡水棲および陸棲のカメ類の分布パターン. *爬虫両棲類学会報*, 2025(2): 145-155.
- 鈴木大, 會津光博, 菊水研二, 2015. アライグマの食害を受けたと考えられるニホンイシガメ. *爬虫両棲類学会報*, 2015(1): 15-17.
- 鈴木大, 矢部隆, 野呂達哉, 足田努, 2012. 外来種ハナガメによる遺伝的攪乱 (学会講演要旨). *爬虫両棲類学会報*, 2012(1): 47.
- Suzuki, D., T. Yabe, and T. Hikida, 2014. Hybridization between *Mauremys japonica* and *M. reevesii* inferred by nuclear and mitochondrial DNA analyses. *Journal of Herpetology*, 48(4): 445–454.
- Ueno, S., N. Kamezaki, K. Mine, D. Suzuki, S. Hosoya, K. Kikuchi, K. Okamoto, M. Torii, K. Kadowaki, K. Okamoto, and M. Sano. 2022. Reproductive ability of the hybrid between Japanese pond turtle (*Mauremys japonica*) and Reeves' pond turtle (*Mauremys reevesii*). *Zoological Science*, 39(2): 186-192.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Mauremys japonica has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Mauremys japonica* is listed as VU under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

- Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.
- Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - extent of occurrence
 - area of occupancy
 - area, extent and/or quality of habitat
 - number of locations or subpopulations
 - number of mature individuals

Habitat types:	<p>【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Upper river basin, Middle river basin, Reservoir/Pond, Lake/Dam</p> <p>【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Farmland, Wetland, Middle river basin, Lower river basin, Inlet, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam</p>
Threat types:	Logging and wood harvesting, Lake development, River development, Wetland development, Field preparation, Land development, Dam/River structures construction, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by

	alien species), Competition (with alien species), Hybridization (with alien species), Climate change
Law designation status for conservation	—



執筆者:	鈴木大 (東海大学) ・ 竹中践 (東海大学)
Author:	Dai Suzuki and Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月